

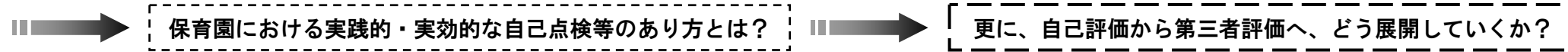
概念図

はじめに(福祉サービスの「自己評価」、ならびに「第三者評価」事業の背景にあるもの)

措置制度から「委託契約」制度への移行、多様化する経営主体、利用者本位・権利意識の高揚 → 社会福祉法成立(H12) ※サービスの自己点検・評価が義務化(第78条) 運営費の弾力運用「299号通知」(H12～:改正H16,H17)・法人監査が4年に1度へ(第三者評価・外部監査と連動)(H19) → 第三者評価を受審する法人・施設急増!?

サービスの質の向上・競争の時代へ突入

依然として根強い「公」への依存体質や、経営者本位の運営姿勢 → 評価には消極的・否定的 複雑な勤務シフトや非常勤職員の増加、多様・複雑化する保育課題等 → 点検・評価・改善...が、効果的に進まない



5つの仮説

取り組みの実践(検証過程)

検証(考察)

Five hypotheses and their corresponding practices and reflections. Hypothesis 1: Self-inspection is effective in a manager-led system. Practice: Director organizes SOPs. Reflection: Director's responsibility is key. Hypothesis 2: Support systems and external resources are needed. Practice: External experts for training. Reflection: Quality improvement is a 'short cut'. Hypothesis 3: Self-inspection should be self-oriented. Practice: Regular forums and surveys. Reflection: Staff must be motivated. Hypothesis 4: Group/team-based self-inspection is needed. Practice: Group-specific inspections. Reflection: Understanding basic stances is essential. Hypothesis 5: Self-inspection is possible for staff. Practice: Staff-led self-inspection. Reflection: Democratic environment and staff motivation are key.

平成17年から平成19年度の、全体検討会・第三者評価等による総合評価結果の変遷

Table with 7 columns: 時期, a, %, b, %, c, %, 特徴的状況. Shows a trend of decreasing 'a' and 'b' items and increasing 'c' items over time, indicating improvement in evaluation results.

保育の自己点検・評価に求められる7つのスタンス(当園の基本的スタンス)

- 1) 組織的であること: 全役職員が主体的に自己を点検・評価し、分析や改善に参画すべき
2) 計画的であること: PDCAサイクルで、かつ中・長期的展望に立って
3) 実践的であること: 利用者本位に立った臨床の知を結集したものを(専門性)
4) 効率的であること: 時間確保や労働過重軽減等、負担・費用対効果の高いものを
5) 一体的であること: 利用者や地域を巻き込み、保育園づくりへの協働作業として
6) 客観的であること: 利用者等の意向も反映させ、公正公平な基準に則したものを
7) 肯定的であること: 否定的・懐疑的ではなく、今を認め合い、更に高め合う姿勢で

おわりに(今後の課題)

- 園長、保育者の Professionalism の高揚・維持を!
● そもそも「保育」とは? 「評価」とは?
● 結局、問われているのは「保育力」ではなく「園長力」!

柏女霊峰による2つの示唆

「少子化や子ども虐待の増加という社会的状況を受けて、子育て支援をはじめとするさまざまな政策が打ち出され、児童福祉法や児童虐待防止法の見直しも行われています。しかし、子育ての唯一の専門職である保育士が、自らの担う責務を自覚することなくしては、こうした政策がいくら打たれたとしても真の効果あるものにはならないのです」
「子どもの個性を尊重した保育を実践するためには、子どもの発達や子ども・家庭の状況の理解や保育のあり方についてのふりかえりが必要です。その際、人から言われて行うのではなく、まずは自らがその大切さを認識し、自己評価を実施することが大切です。」

\*「園長力」については、当園のホームページ(http://www.ans.co.jp/n/hirota)「保育に関する研究」頁中の公開論文『保育サービスの多様化に対応する「保育の質」の向上について～民間保育園長の使命と課題の考察』等に詳掲。また、近刊『幼稚園・保育所の経営課題とその解決』(幼稚園・保育所の経営課題実務研究会編・編集代表 森上史郎他 第一法規)中の拙論「ミドルリーダーの育成と組織活性化」等も参照されし。